La Theorie de l'anarchisme

et sa realisation

par S. Ishikawa

石川三四郎著

定價 二十圓

無政府主義の原理と其實現

東京、世田谷、船橋町、七七四

共學社發行

共學パンフレット(第十三輯)

石川三四郎著 (B⁶型) 價一五〇圓
(二五〇頁) 郵稅四〇圓
無政府主義の大成 **エリゼ・ルクリュ**

△主要目次○人物○社會思想○伯林留學○
クーデタ・亡命○北米黒奴解放への寄與○
最初の大作○インタナショナルとパリコム
ミュン○軍法會議の被告となる○世界地理
學の大成○爆彈事件頻發○最後の傑作○投
票は墮落○美の革命

東京・世田谷・船橋町七七四

取次 共學社

石川三四郎著 (菊版三〇〇頁)
近世東洋文化史
價三〇〇圓
郵稅五〇圓

△主要目次○近世概觀○大太平洋戰爭○日明
衝突の意義○東亞海洋文化の展開○チム
ルランク○アクバル大帝○ベルシア文化の
運命○西洋勢力の東進○西歐人のインド征
服○ロシアのシベリヤ征服○チベット法王
廳○日露戰爭が東西諸國に與へた影響

東京・世田谷・船橋町七七四

取次 共學社

序

本書は一年前に宋世何君主宰の『自由社會新聞』に掲載した論文である。所々に多少増補したい點もあるが、いまその暇がない。當時の社會狀勢に關連した感情も、自然にちみでてゐると思はれるが、それも却て面白からうと考へて、そのままにした。『無政府主義入門』の積りで書いたものであるから、尙ほ深く研究したい人は、拙著『社會美學としての無政府主義』、『無政府主義研究』、『歴史哲學序論』等を並讀せられんことを希望する。

無政府主義の原理と其實現

石、川、三、四、郎

第一、無政府主義の原理

今日ほど無政府主義が光明として語られる時はないであらう。數世紀この方、この世の改革意見として、世界に現はれたるものも思想は既に悉く失敗し落第して、人類解放に任ずる資格を全然喪失して了つた。マルクス主義から生れた双兒たるファシズムとポエルシビズムとは勿論のこと、英國流のフェビヤン社會主義も、佛國流のジャコバン社會主義も、獨乙のナチズムも、諸君が既に眼の前に、焼きつくやうな事實として見せつけられた

悲劇に終り、または終らんとしてゐる。たゞ一つ、最後に殘された、そして後光に輝やく社會思想、それは即ち無政府主義である。いづれの國を問はず、強權の上に立つ政府が、何と強辯し、何と甘言しようとも、畢竟するに人民を搾取する以外に、何の使命も、能力も持たないものであることは、最近十年間の歴史だけでも最も明白に證明したところである。經濟學の父と言はれるアダム・スミスでさへ、政府といふものは社會の最大浪費者だと喝破したが、この言葉が今日ほど光明の如く眞實を照破したことは曾て無いであらう。從來、西洋の人は、政府は

必要な害悪だ、と言つて之を諦めて来たが、今日では、政府は不要な害悪だ、と修正せねばならなくなつたのである。さうだ、無政府こそ最も善き秩序であり、無政府社會こそ最も光明に輝やく善き美しき社會なのである。

無政府主義がなぜ、そのやうに善いか、なぜそのやうに美しく、なぜ光明に満ちてゐるか、少しくその理由を述べよう。

(1) 宇宙觀

先づ第一に無政府主義は近世宇宙觀の要求する人類生活の軌準である。近代科學は宇宙間に權威的中心の存在しないことを説く。通常太陽系に屬する諸星群は、われわれの住む地球とともに、皆な太陽を中心として宇宙間を運行するもののやうに思はれる。勿論太陽だけを中心として考へる時は、一應はさう言へるであらうが、併し太陽系に屬する諸星と太陽とは物理的に相互關係にあり、いづれが他を動かしてゐるといふ關係にあるのでは

ない。それ故に昔風の地球中心不動説でも、天體運行の計算が或る程度まで立派にできたのである。更にまた、われわれの屬する太陽系の他に尙ほ多くの太陽系が存在すると言はれるが、それがわれわれの太陽系と相互關係にあるとすれば、われわれの宇宙生活にはたゞ相互關係のみ存在して、強權的中心のないことが明知される。況んやわれわれの宇宙觀は無限觀にまで到達する。そして無限觀には中心思想は這入つて來ない。況んや強權的中心觀などは雲散霧消してその影をも留め得ぬものである。

無政府主義者はこの無限の宇宙を家として生活する。その中には自由と平等と相互觀との他には之を繫縛する何ものをも存しない。勿論われわれはこの無限の宇宙間に有限の生活を営む。所謂自然法則と稱するものから一歩も履みだすことほできない。されば、われわれは之に對する時は絶対に無自由である。然しながら一切の人間の汚染を洗ひ去つて、われわれ自ら自然に還へる時は、われわれの生命活動はそのまゝにして自然法爾である。

ルソーが『自然に還へれ』と言ふ言葉が、直ちに無政府社會の建設に繋がる所以がこゝにある。フーリエの『土に還へれ』の思想は、更に一歩を進めて同一線を通るものである。自然に還つた無政府主義者の生活は、このまゝにして既に無礙自由で、光明に包まれてゐる。無政府主義者の戦ひが常に朗かで、常に前進があつて退轉を見ない所以がこゝにある。天火をかざして自然行進曲を朗唱しつゝ、荆棘の道を啓開し行くことを無上の樂みとするのが無政府主義者の本分である。

(2) 人生觀

デカルトといふ哲學者は、「我れ思ふ、故に我あり」と言つた。私の存在を基礎づけたのであらう。併しまた考へて見れば、我れ思ふは我れがあるからではなくて、實は宇宙大自然があるからだ、とも言へる。われわれは、この世に生れた時は「われ思ふ」のでなくて、たゞ生きてゐるだけだ。宇宙の中に虫のやうに生きてゐるだけ

だ。それが「われ思ふ」となり、「われ語る」となる。思ふ時には言葉を念頭に浮べて思ふ。「われ」といふ思想も言葉に過ぎない。ところで、その言葉はどうして出來たか。それは人類といふ地上の子供等の長い長い經驗と努力との結果として生成されたもので、幾千億萬人かのわれわれの祖先の賜ものである。それは併し、單にわれわれの言葉のみではない。今わたしが、この文を書いてゐるベンでも、紙でも、着けてゐる衣服でも、住む家でも、何一つとして私自ら作つたものは無い。それらの總ては、この地球上に人類が生れて以來の世界の總同類の勞苦と精進との所産物なのである。否、このやうな諸物のみではなく、私の知識は勿論のこと、私の身體も、生命そのものも、私の名も、皆々他からの賜ものである。それ故に、デカルトの格言とは反對に「われ思ふ、故にわれ無し」といふことも出来る。

西洋の科學者は言ふ、地球の表面に初めて生命が芽をふいたのは、太陽から放射されるクロマチンが地の胎内

に入つた結果だと。クロマチンとは色素のやうな元素かも知れないが、私にとつては、名前はなんでもよい。精靈でも、靈魂でも、かまはない。天と地とが交合して、生物が生れ、人類が生れたと考へれば、それでよろしい。更に太陽や月と地球との引力關係で、地球そのものの各面が今も尙ほ約十二時間ごとに自轉運動につれて膨脹縮小の呼吸を續けてゐると言はれる。海の干潮満潮と同じものであらうと考へられる。醫者の經驗談によると、人間が最期の息を引きとる時間が、この潮汐の干満に關係すると言はれる。かうした關係に於て、われわれはこの地球上に生れ、地球上に生存する。われわれは天地を父母として生れ、その懷の中に一生涯を終るのである。言葉を変へて言へば、われ生きるに非ず、父母、天地、自然が生きてゐるのである。「われ思ふ、故にわれ無し」と言へないであらうか。そして、無限の宇宙からこの太陽系の諸星を見ると、その中には多少大きなと小さいのとありながら、要するにすべてが見るかげも無き儚な

い存在に過ぎなからう。その小さな星の一つの中に生きてゐる人間われわれが、何を思ひ、何を語るとも、遂にこの地球外に一步も履みだし得ない地の子なのである。この小さな星の中で、階級だの、國家だの、政治だの、宗教だのと、さまざま「我」を立てて、狂い騒ぐ蛆虫どもの生活を見て憐れを感じないものがあるであらうか。「われ思ふ、故に我なし」とわれわれは思ひながら、また飄つてこの「哀れな世情」を慨歎する。われわれの地球は、まことに見る影もない小さな星ではあるが、しかしわれわれの脱出し得ない唯一の家であり、われわれの生命そのものである。われわれはこの家、この祖國に狂い騒ぐ蛆虫たる同胞とともに、この家、この祖國を狂亂から救ひ取りたいと思ふ。われ等の祖國は小さい。宇宙的運命から見れば、まことに微力であり、自らどうにもならない運命をも負つてゐる。この小さな祖國に生きるわれわれは更に一層はかない個體だが、この祖國の現状を見ると黙止し得ないものがある。「われ無しと思ふ我

あり、止み難し、だ。無政府主義者は無我の世界に無我といふ私の戦ひを使命とするのである。

(3) 政治観

政治とは『我』が他を治めること、または支配することである。「支配する」と思つて支配するやうな眞似をすることである。支配されると思ふ側でも、たゞその『我』が制束されると感じるだけである。そして、その支配の爲方、受け方を互ひに論じ合つてゐるのである。政府も政黨も、資本家も労働者も、社會黨も共產黨も、政治家も改革者も、たゞこの支配の形式のために心を碎いてゐるのである。それを政治といふ。その支配そのものを自然の法則に背くものとして、それを無くしようといふ心も碎くものは唯だ無政府主義者のみである。

資本主義に換ふるに共產主義を以てしたところで、それは單に舊い権力者に代つて新しい権力者が民衆の上

に君臨するに過ぎない。プロレタリアの獨裁と稱して、プロレタリアを獨裁するに過ぎない。少數の精力家、野心家が一般民衆を支配する點に於ては、資本主義社會や、專制君主社會や、封建武力社會やと、些かも異なるところはない。社會黨が政權を掌握したところで、その結果は同一である。一般大衆はピラミッド型の權力統制機構の下積みとなつて、一生涯血と膏とを搾られる以外に何の得るところもないことは分つてゐる。それは『我』の思ふことを強權を以て遂行しようとする當然の結果なのである。強權は支配者の『我』の執着から必然的に必要的に行使される社會悪だ。この社會惡こそ、この世に行はれる一切の罪惡の源泉なのだ。この罪惡の源泉を塞止することなしに、世界の改善、人類の解放を語るは恰も水面の月光を握らうとする哀れな愚擧に過ぎない。而もこの哀れむべき愚擧が、まじめ顔した堂々たる男女政治家によつて夢遊病の如く行はれてゐる。重ねて言ふ、今の世界の人類は皆悉く一種の夢遊病患者となつてゐる。

『我が』所有權、『我が』富、『我が』地位、『我が』名

譽、「我が」名、「我が」權威、みなこれは、「我」の宗教である。わが造つた一物をも持たないわれわれが、この「我」の宗教を信するが故に、階級もあり、國家もあり、戦争もあり、支配もあり、服従もあり、一切の社會悪が生れるのである。政府は一物をも生産することなしに、物價を代表する貨幣を發行する權利を獨占する。これは支配意識に基く最大の罪惡の標本である。物を持たない、物を生産しない政府が、その代表たる貨幣だけを無やみに發行するが故に悪性インフレが襲來する。最近二三年間に國民の貯蓄貨幣の實價は殆ど五十分一乃至百分一に激減したが、それは國民の知らぬ間に國家からすり取られたものである。その爲に國民が國家に盜まれた額は幾百億圓が知らないが、強權を以て貨幣權を獨占する罪惡の標本としては、最も明白に今われ等の眼前に展開される最好の事實である。これは共產黨が天下を取らうが、社會黨が政權を獲得しようが、結局に於て異なるところはない。若しすべての人が自己の經濟的信用を基本

として紙幣を發行する自由を持つてゐたならば、今日の如き悲惨事は起らなかつたであらう。勿論われわれが拒否する戦争などは何人にも起し得なかつたであらう。支配我、所有我、功名我、の最も露骨に現はれた金融獨占が齎らしたこの社會悪から免れる道は、たゞこの權能を萬人に平等に認めるにある。金融無我が成立しない限り、どんな巧妙な美機麗構が考案せられても、民衆は富の束縛から斷じて解放されない。この金融獨占を理論的にも實際的にも否定するものは、今の世界に於て唯だ獨り無政府主義者のみである。他のどんな主義も、どんな黨派も、唯だこの一點に於て、この金融獨占を否定し得ないといふ一點に於て、明かに民衆の味方でないことを曝露してゐるのである。貨幣を自由に製造して自由に使用し、バリの裁判所で死刑になつたラバシヨルが、「政府でさへ勝手に貨幣を造るのに、俺が俺の力で之を造り、俺の信用で之を使用するのがなぜ悪いか」と喝破した言葉には味はふべき理窟がある。だが、かうした行動は

共產黨や社會黨の下では矢張り大罪として所罰されるにきまつてゐる。

(4) 寄生虫群

哀れむべき細かな星の片隅にあつて、芥子粒ほどにも値しない小さな日本といふ一生命體にも、その垢と汚とに食い込んだ夥だしい寄生虫が群生してゐる。幾萬といふ官僚、大小財閥、政黨政治家、有象無象が皆それだ。それ等が競争して日本に食い付いて、日本を悶亂せしめてゐる。多年に亙る夢遊病の結果、日本は自らを洗ひ清めることを忘れたので、今や全身は污垢に塗みれ、様々な寄生虫にさいなまれてゐるのだ。而も今日の政府者も、官僚も、政黨も、社會運動者も、その積り積つた垢の上に、更に新しい汚れを塗ること以外には考へない。そして自ら寄生虫となつてその垢によつて日本の血を吸ふことしか考へない。現在の政府者や官僚や、政治家や、社會運動者等が巢食ふてゐる諸々の機構は、自ら

を清淨にすることを忘れた夢遊病者日本民族に付着した垢なのである。この垢を拂拭して、この寄生虫を驅除しない限り、日本民族は永久に救はれないであらう。日本人は無表情だと言はれ、日本人には個性がないと言はれ、日本の諸都市には各自の特色がなく、各地方にも地方色がないと言はれる。それは近代的汚垢に二重三重に塗りつぶされた日本の姿を最もよく批評した言葉である。日本には今、日本そのもの、眞の生肌が表はされてゐないのだ。今の日本を色彩してゐるのは、その垢と寄生虫との色調である。われわれの先づなざねばならぬことは、大掃除だ。掃ひ清めることだ。バクニンはパンデストラクションと言つた。一切の垢と寄生虫とを拂拭して、われわれ民衆が自ら身を清めて各自の生肌を露はす時、誰一人として、その個性を持たぬものなく、誰一人として、自己の獨自性を感じないものはないであらう。ここに於て初めて、「われ思ふ故にわれあり」と言ひ得るに至る。無政府主義の第一歩は踏みだされたので

ある。「無我」の面に於て平等を感じたわれわれは、「我」の方向に於て自由を思ふのである。無我の我こそ眞の我である如く、平等の自由こそ眞の自由なのである。無政府のみが、眞の社會秩序を成し得る所以を、これによつて諒解すべきである。不平等の自由は強者の自由となり弱者の束縛となりうる如く、政府の立てる秩序は、強權を以てする秩序であつて、弱者の屈從によつてのみ服はれる假裝秩序である。

數日前の朝日新聞の記事に、國鐵争議のやかましい最中、或る地區の闘争委員長は幾人かの同僚を引具して東北線の汽車に乗り込み、その車輛だけ特にヒーターをつけて意氣揚々たる様であつたといふ。また同じ記事の中に、同じ國鐵に特に上等車を連結せしめて之を獨占した人があつたが、よく見れば、それは今の平塚運輸大臣であつた、と書いてあつた。この様な記事は日常ありふれた平凡事であるが、今日の所謂指導階級人の心理を最もよく表明したものととして、重要な意味ある證據になる。

は之を國民一般も負はねばなるまい。大臣だの委員長だのと得意になる人間は、大ていは愚かものである。愚かものなればこそ、國民の寄生虫になつて得意になる。自分が些か偉くなつたと已惚れる。愚者が一段と愚者になりまざるのである。そして前掲の「朝日」の記事にあるやうな、恥を天下に曝らして恥とも思はなくなる。彼等も「我」の夢に犯された夢遊病者なのである。かうした愚劣さを、全社會から拂拭し去る資格あるものは、たゞ獨り無政府主義者のみである。

第二、無政府社會の組織

私は以上に於て、無政府主義の原理に就て極めて簡略な解説を試みた。然らば、この原理に基いて組織される無政府社會は如何にあるべきか？ そのことに就て、今わたしの氣づいたことを略序しよう。勿論、無政府社會は無強權社會であるから、自然發生的に成立するのが當

殊にそれが日常平凡事として朝夕遭遇する事實であるが故に、特に重要なのである。この事實に現はれた大官僚と労働運動者との心理に顯著な點は、彼等の持つ不平等觀と、利己「我」とにある。今日木の汽車は敗殘車を以て出来てゐる。窓硝子は破れて寒風が吹き通してゐる。一般乗客は混雑と寒氣とに揉まれ曝されて、之を殺人的交通機關だといふ。こんなむごたらしい状態にお乗客様を追い込んで置いて、その最大の責任者たる大臣が獨り

暖い一等車内にふんぞりかへつてゐる。また同じ責任者であるスト屋の隊長が自分だけヒーターに暖まつて得意になる。讀者はこの記事を讀んで何と感ずるか。淺ましい日本國民！と感ぜざるを得ぬであらう。而もこれが日常事として、毎日どの方面にも充ち満ちてゐる現象なのだ。産業の復興だの、人民の解放だのと、口先では立派に喋り立てるが、その生活はこの有様だ。

併し、これも考へて見れば彼等の無知から来る無恥の行動に過ぎない。また彼等をして、かくあらしめた責任然であり、從て豫めその型を詳細に制定し置くべきではない。また假りに豫定して置いても、必ずその通りに行はるべきものとは限らない。更にまた、たとへ一定の組織を確立して置いても、生きた人間の社會生活は常に停止することなく進展流動するが故に、強權を以て保守せぬ限り、その組織は日に月に變化發展し行くべきものである。かくてこそ、進歩と秩序とが、衝突することなしに、大體スムーズに流動し運行するのである。無政府主義が無定型主義であるといふのは、この事を言ふのである。

併し、それにしても、前述の原理から推理して、未來の無政府社會のあり方を大體想像することも一應の道標にはなり得ると思ふ。先づ説明の便宜上、その全機構を、經濟機構、文化機構、融通機構の三種に分けて略序しよう。

(1) 經濟的協同機構 經濟社會學、自然經濟學では、社會の繁榮が協同的組織によつて最もよく展開され

るものであると説かれるに係はらず、實際に於て、人間は隣人の損失に於て自己の利益を圖らうとのみ考へる。今日の資本主義産業に於ても、一應は資本家と労働者との共同の利益といふことが考へられる。殊に純理に於ては、それが尤もらしく説かれたる考へられる。然るに實際の世情に顧みると、資本家と労働者とは恰も仇敵でもある如く常に争議してゐる。それなら徹底的に分離すればよさそうなのだが、争ひながら同一職場に面を見合せてゐる。そして、争議の合法化が唱へられ、この道化芝居が或る場合には讚美さへされる。官吏・公吏・學者・學生・教師・労働者等が、これを堂々と得意面して世界の前に演出する。ストライキは一種の興業ではないかと疑はれるに至つた。スト屋とヤミ屋とは現代第一の寵兒でもあるやうに横行するに至つた。ヤミでなければ生産者と消費者との間の融通が行はれないのと同様に、ストによらなければ働く者の生活が確保できない世の中でありながら、それを自ら國民といひ國家と稱し、

恰も共同體でもあるやうに考へる。かうした經濟生活のどの面に協同的精神の片鱗でも伺ひ見ることが出来るか？ ストのスの字を發音しても直ちに首を斬られるソヴェート・ロシア以外に於ては、ストライキの行はれない國は一つもないと言へる。かうした莫大な時間と勞苦との空費をなくし、そして國際間の戦争といふ生命と富との大浪費をなくしたら、この世のわれわれの生活はどんなに明朗に、どんなに富裕になるであらう。そして、それを希望し得る資格を持つ者は、獨り無政府主義者のみで、その無政府主義に基く協同組織のみが、眞に協同と名づけられる性質を持つ。言葉を換へて言へば、眞に平等、眞に自由の者の間に於ける協同組織のみが眞の協同であつて、この協同によつてのみ、經濟的繁榮の極致が實現されるのである。そして、かうした協同社會に於て始めてストライキも戦争も不必要になるばかりでなく、寧ろ一大反社會的行動となるであらう。

經濟的協同機構の中には消費者協同組合があり、生産

者協同組合あり、また運輸協同組合もある。更に各組合の内外の狀態によつては、消費協同會の中に協同生産を營む場合もあり、或は生産協同會の一部に協同消費機構を設ける場合も生ずるであらう。かうした各種の協同體は、或は一地方の境域内に止まるものもあり、或は全國的に聯合するものもあり、或は國際的に廣く聯繫を持つものもあるであらう。運輸協同組合の如きは最も廣く聯絡機構を延長する必要があるものである。

(ロ) 文化協同機構 文學、美術、工藝、音樂、演劇から、科學、教育、宗教等に至るまでこの範圍に入るのであらう。自由社會に於ては、犯罪は懲罰の對照にはならないで、寧ろ教化の對照になるであらう。従つて今日の司法や警察の事務は無くなつて、その一部分の仕事が教育部門に遺されるであらう。

これ等諸部門に屬する人々は、各自の部門毎に特殊な消費組合を必要とする場合もあるべく、また特殊な協同生産業を營む必要をも生ずるであらう。それは、各自の

職業に従つて特殊な資材を必要とするが故に、自然に特殊な協同購買、又は特殊な協同生産を計畫せざるを得なくなるのである。また自由社會に於ては、文化活動は經濟活動と密接して隔離せず、各種の職場は同時に教育所であり、研究所でもある。勿論、諸種の藝術や科學の爲には特殊な研究所を必要とするが、そこに研究するものの中には、工場労働者も、運輸業者も、通信業者もあるであらう。

自由社會に於ては、學問もなければ、お家藝といふものも無くなり、どんな傳統を持つた秘傳も公衆の前に公開せられ、何人でもその能力あるものは、之を攝取して自己上進の手段とすることが出来るであらう。今日の大學のやうな研究所は至るところに各自の特色を發揮して存在し、何れの方面から來る研究者に對しても決して門戸を鎖さぬであらう。かくて技術や學問や藝術の進歩は今日から想像も及ばないほど急速に行はれるであらう。何百萬といふ不生産的寄生虫たる軍隊を始め、官僚、財

閣・政治家等の民族のダニが驅除せられた平等・自由の社會に於ては、その莫大な餘力と富力とを、進歩的な諸研究や諸藝術に傾注することができる。研究心・發明心の勃興は、今日の尺度から見ても眞に驚異に値するであらう。眞の藝術心の興奮、技術練成への精進等は平等・自由の社會に於て始めて充分に發揮せられるのである。

人が人を支配し、統制することなき平等自由の無政府社會に於ては、各自の天分は満全の啓發擴充を以て表現される。人間の競争心は人爲的の一切の障礙に遇ふことなく發揮せられ、萬人悉く平等の發足點と機會均等の下に於て、赤裸々な競争が行はれる。それは競争といふよりは、寧ろ競進的努力といふ方がよろしいかも知れない。なぜなら、それは他の損失に於て自分が利得するのではなくて、單に互の鍛鍊なり研究なりを互示するに過ぎないからである。この競進互示の精神こそ、すべての人の創造的藝術を發揮せしめることを經濟原則とする無政府社會に於て最も鼓吹せられ讚美せらるべき社會精神の

秀ならず、不能者が却て社會に寄與すること多大な場合もある。宜しく各人の自然の全眞の個性を見るべきである。各人が独自の個性を持ち、甲が乙に代はることのできない嚴然たる價値を持つてゐる。それを充分に發揮せしめるのが無政府主義の經濟原理である。そして、それは平等・自由の精神に基く協同機構の下に於て始めてよく行はれるのである。

(ハ) 融通機構 併しながら、無政府主義の理想が如何に立派で、如何に周密巧緻を極めても、現實の人間、現實の社會は、餘りにも不合理な、險惡な、情勢を孕んでゐる。平等・自由の理想社會、協同平和の光明社會を創成するとしても、それを擔當せねばならぬものが、かうした現實の人間なのである。強權を以て強制的に新制度を建設するのであれば問題はない。民衆のイニシアチブによつて自由の協同生活を建設し維持するには、今日の人々は餘りに無知、餘りに無恥ではあるまいか。問題は、この無知を如何に啓發し、この無恥を如何に矯正

一つである。これに依て一般民衆の努力的生活に熱を興へ、殊に青少年の進歩心上心に、活力を注ぐことができるであらう。それは所謂生存競争・適者生存・優勝劣敗の原則を高揚するのとは、全然反對の精神であつて、優者はその優を示し、劣者はその劣を示して、協同するのである。優と劣とは或る特殊な場合に於ける比較であつて、人格價値の對比にはならないのである。學校試験に落第したものが社會試験場で優逸し、學校で秀逸であつたものが、實社會生活で落伍する例は非常に多いのである。無政府社會に於ては、所謂賢愚・強弱・能不能によつて人の價値を評定せず、所謂賢者を必ずしも賢者と見ず、所謂愚者も充分に存在價値あるものと見る。愚者をしてその愚を充分に發揮せしめよ、その天分に於て社會に貢獻するところ蓋し少なくないであらう。或る場合の弱者は他の場合には強者となり、或る場合の不能者は他の場合に能者となる。「多能は無能の全眞に若かず」といふ語がある。(榮根譯)能者必ずしも社會的價値に於て優

し得るかにある。勿論、教育はその無知を啓發し、藝術はその無恥を誘導する。それでこの問題は解決されるか? なか／＼さう容易くは行かない。人間の汚染墮落は既に膏肓にまで入つてゐる。そこで無政府主義者は相互主義の方法を以て、これに當らうとする。相互主義はまた双務主義である。己の欲するところは之を人に施せ、己の欲せざるところは、之を人に施すこと勿れ、といふのが双務主義である。この原理によつて、もろもろの融通機構が樹立される。有無相通じ、得失相扶けて、民衆相互の物心兩面に互る融通を企圖することは、同胞の矯正に寄與すること多大である。如何にしても或る同胞が反社會的行動を止めない場合は、最後の手段として、融通遮斷といふ最も強硬な手段もある。

この融通機構は自由社會組織中の最も重要な一中樞點を成し、これに依つて社會全體の連帶的ベルトは強化されるのである。この機構の作用は、今日の大藏省や、銀行や、保險會社や、統計局や、遞信省や、信用組合や

の擔當する廣汎な事務を總括管理するにある。尤も協同社會に於けるこれ等の事務は極めて簡易であつて、今日の官省の一課又は一局ほどの人員と組織とを以て完全に處理せられるであらう。

この機構中の二つの重要な部局は、相互銀行と統計組合とである。この兩者は各種の生産團體や消費團體や文化團體やの選出せる委員を以て構成し、その顧問として諸種の専門技術家が活動する。そして統計部の方は各種の經濟團體や文化團體から送られる統計的報告を精細に調査綜合計上する。それには勿論、地方的綜合統計もあり、業種別綜合統計もある。かくて成立せる統計は次期年度の諸計劃の基準となり、當期の融通決算ともなる。相互銀行の方は、相互協同保險組合や、相互信用組合や、倉庫業や、仲介業や、を兼業する。交票を發行して交換流通の手段とする。この相互銀行は現在の資本主義的強權社會から無政府的自由社會に進化する轉換期に際しても最も重要な役割を演ずるであらう。その事に就ては、

ともある。それは營利事業として營むものではなく、各種協同體又は個人の爲に融通事務に任ずるに過ぎないのである。

近代社會の經濟的專制は國家の貨幣發行權獨占に於て最もよく表現されてゐる。この貨幣發行權を人民自治權の一部として認めない限り、民主制も、自由も、平等もあり得ない。貨幣に基本價值を持たせるか、又は單なる交票として流通手形として發行するかは發行者の自由に任すべきである。何れにしても金利といふものを絶対に認めない社會に於ては、富者の強權は存在しなくなる。交票又は貨幣を貯蓄した者は、之を他の人に貸すことは出来るが利子は得られない。従つて友情又は慈悲のために、或は共同事業のために、所持の貨幣を支出することはあつても、單に利潤を目的に投資するといふ現象はなくなる。無政府主義社會は創造の社會である。萬人悉く自己の天分を擴充發揮して、この世に生れた、そして一切をこの世から享受した、全能力を傾け盡して最大限の

後に無政府主義の實現を説く場合に詳述する。唯だこゝには、この相互銀行は各地方に、また各事業別に、便宜に從て創立せられることあるべきこと、またそれ等の銀行の總聯合體も設立せらるべきこと、等を豫想するに止めよう。

無政府社會に於ても貯金の制度は存續するであらうが、貨幣である交票には利子が拂はれないで、却て貯蓄者の方から保管料を銀行へ拂はねばならない。各地の相互銀行はそれぞれの地に於て倉庫業を營み同時に保險業をも營む。それは勿論、その銀行を協同經營する團體の責任に於て行はれる營業なのである。従てその協同團體内の依托者と他の團體内の依托者とに對しては、些少の差別待遇を必要とする場合もあるであらう。それは技術上の問題であつて、理想・原則としては差別はされないのが當然である。銀行は組合員又は一般顧客のために信託業を營み、その信託物に對して交票を發行することもあり、また特殊な貨物の依托販賣、及び仲買業を營むこ

創造に邁進することを道徳とする。平等と自由がその社會の至上原則である所以がここにある。なぜなら自由人の最大の興味は眞の創造であり、それは自我の實現だからである。農業も、工業も、漁業も、一種の藝術となり、或は少なくとも藝術の手段となるのである。クロボトキンは無政府主義の經濟學は消費を基準にすると説いたが、私は更らにわれわれの生活に積極性を認めたい。即ち全人の最大限の創造工作を可能ならしむべく消費計畫並びに生産計畫を樹てねばならぬと思ふ。そして、こゝに融通機構の必要が生じてくる。貨幣も交票もその爲めの流通手段として存在の理由があるのである。創造といふことと、消費及び生産といふこととの關係に就て多少の疑問が起るかも知れない。私がここに創造といふ語を用ひたのは、人格の表現としての綜合的生產を指示すべく試みたものであつて、人格と關係なき生産とは自ら意味を異にする。クロボトキンが生産基本の經濟よりは寧ろ消費分配を基準とする經濟を説いたのは誤りではな

い。私の言ふ創造もまた一方から言へば消費であり、また生産でもあるが、それはたゞ經濟活動の形式から見た稱呼であつて、その活動の内容を表現したものではない。各人の創造を最大限ならしめよ、といふことを無政府主義經濟學の第一原理たらしめたいと私は考へる。

(二) 中央協同委員會 以上に述べた經濟的協同機構と文化的協同機構と融通機構とは無政府社會を形成する諸機構の素描に過ぎない。今それを詳細に記述する餘白を持たないのは残念であるが、ここに更に唯だ一項目を附加せねばならぬことがある。それは、これ等の諸機構を綜合して一箇獨立の社會たる機能を發揮すべき中央機構である。それは一種の聯絡機關であり、前の融通機構と外交機關とを直屬とする中央協同委員會である。無政府主義は世界的聯合組織が構成せられて始めて完成されるのであるが、日本の如き島國で而も軍備を全廢し戰爭を放棄した純文化國に於ては、獨立して純粹自由社會を樹立し得る可能性は充分にある。それはわれわれ日本

人の恵まれた地點である。

この中央協同委員會は經濟聯合團體と文化聯合團體と融通機構と外交機關とから若干名の委員を選出して構成し、毎年半數づゝ改選する。全部を改選すると事務一切が切斷されるからである。この中央委員會は融通機構や外交機關の意見に基いて時々全社會に向ひ、又は或る團體に向つて勸告し、又は報告する。強權國家の如く命令や指令は決して發しない。外交問題なども専門機關の意見を徵して、この中央委員會が決定する。重大問題は——外交又は國內關係の——經濟・文化兩部面の特に選出せる多數の委員會の決議を必要とすることもある。

第二、無政府主義の實現

序

さて、これより私は無政府主義の實現方法に就て、極めて簡略に私の考案を述べたいと思ふ。第一に無政府主義は否強權主義であるが故に攻撃的暴力は避けなければならぬ。第二に無政府主義は自由聯合主義であるが故に永い經驗と訓練とを必要とする。第三に思想の確立せられない處には無政府社會は樹立し難きが故に啓蒙・教育の爲事が最も肝要である。今この三點に就て、順次に私の所信を略序しよう。

第一、否強權主義の實行、無政府主義者は強權なき社會でなければ、萬民が自由にして幸福な生活を楽しむことはできないと信ずる。その自由にして平和幸福な社會を齎らす爲に暴力を行使するならば、それは直ちに強權を立てることになる。無政府主義の實現がデマゴグ

や政治家によつて遂行されるものでないことが分るであらう。無政府主義の實現は平和の手段によらなければならぬ。それには無政府主義に眼ざめた者が各々自己の周圍に共和社會を樹立することが第一に必要である。それが漸次に殖民的に擴大されるやうに絶えず努力を續けなければならぬ。その爲には労働組合にも、消費組合にも協同組合にも、機會を得次第加入して行くべきである。殊に農會や村會には積極的に加入して、自己の周圍を無政府思想に感化するやうに努力すべきである。

もろもろの組合や町村會やが、革命の機會に、われわれの勢力内にあることが多ければ多いほど、無政府社會實現の機會も多いのである。クロボトキンはロシア革命に際し、「われわれは革命の洪水に方向を興へるべき溝を用意してゐなかつた」と歎息してゐる。その溝なしには無政府社會は實現されないのである。ボルシェキキのやうに、強權を以て四圍を壓倒し、たゞわが黨の獨裁制を樹立するのなら、可能の機會は幾らでもある。併しそ